1．科目名（単位数）	社会言語学　（2 単位）	3．科目番号	EIJP2144
2．授業担当教員	古田　高史		
4．授業形態	講義、グループ討議、発表等	5．開講学期	春期
6．履修条件・他科目との関係	「言語学概論」「第二言語習得理論」も履修することが望ましい。		
7．講義概要	社会言語学とは、社会の中で言語がどのように使用されているかに関し理解を深める学問である。具体的には社会の中の性差、地域差、世代差などによる言語の運用について日本語を対象にしながら学んでいく。すなわち本講義は、日本語教育に必要な日本語の運用規則を理解するとともに，言語教育に携わる上での言語観を養うための基礎的科目といえる。日本語母語話者が無意識に行っている言語活動を「社会」という観点から見つめ直すことで，日本語の多様性および日本語の運用規則を理解する。		
8．学習目標	1．社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解する。 2．日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解する。 3．日本社会において日本語の会話構造を理解する。 4．日本語教育における社会言語学の意義について理解する。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	1. 小論文①：身の回りの言葉について、800 字程度の発表原稿を作成する。 2. 小論文②：言葉と文化について、具体的なテーマを決めて、1200 字程度の発表原稿を作成する。 3.最終レポート：小論文①、小論文②の内容を踏まえて、2000字程度のレポートを作成する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】石黒圭著『日本語は『空気』が決める―社会言語学入門』光文社新書、2013		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1．社会言語学の研究領域と研究対象を含む基礎的考え方を理解できたか。 2．日本社会における言語使用の多様性について性差、地域差、世代差を対象としながら具体的に理解できたか。 3．日本社会において位相による日本語の運用規則を理解できたか。 4．日本語教育における社会言語学の意義について理解できたか。 ○評定の方法 授業への参加態度　30% 授業ごとの提出物　30% 期末レポート　40% なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業を通して、受講生が身の回りの言葉に関心を持つきっかけを提供したい。そのため、受講生の関心や状況に応じて、扱うトピックなどの調整を行う場合がある。 受講に際して、特に以下の点には注意すること。 1．欠席、遅刻、早退などせず、積極的に参加すること。 2．提出物、宿題は必ず提出すること。 3．授業での配布物はなくさないこと。 4．教科書は毎回必ず持参すること。 5．分からないことは、担当教員に必ず質問、確認をすること。 6．授業に関係のない私語はしないこと。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		

14. 授業展開及び授業内容

講義日程	授業内容	学習課題	
第１回	オリエンテーション/ 社会言語学について考える	事前学習	社会言語学について、知っていることを箇条書きにしてみる。
		事後学習	教科書目次を通読し、特に興味を持つ章を決めておく。
第２回	序章「空気」の支配力、理論言語学と違った社会言語学について	事前学習	教科書 pp. 3~17 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 3~17 を読み直し、社会言語学と理論言語学の違いについて、整理してみる。
第３回	第１章「社会言語学とは何か」言語共同体とアイデンティティについて	事前学習	教科書 pp. 28~47 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 28~47 を読み直し、言語共同体とアイデンティティについて、整理してみる。
第４回	第２章「地域に根ざした言葉」地域方言と社会方言、標準語、俗語について	事前学習	教科書 pp. 48~73 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 48~73 を読み直し、地域に根ざした言葉について、整理してみる。
第５回	第３章「話し手に根ざした言葉」言葉とジェンダー、幼児語、若者語について	事前学習	教科書 pp. 74~88 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 74~88 を読み直し、言葉とジェンダーについて、整理してみる。
第６回	第３章「話し手に根ざした言葉」老人語、中年語のない理由、言葉と社会階層、役割語と「らしさ」について	事前学習	教科書 pp. 89~100 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 89~100 を読み直し、ことばと社会階層について、整理してみる。
第７回	第４章「聞き手に合った言葉」親疎関係、アコモデーション理論について	事前学習	教科書 pp. 101~108 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 101~108 を読み直し、言葉と親疎関係について整理してみる。

第８回	第 4 章「聞き手に合った言葉」上下関係、敬語とポライトネス理論について	事前学習	教科書 pp. 109~116 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 109~116 を読み直し、敬語について整理してみる。
第９回	第 1 章～第 4 章のまとめ : 身の回りの言語についての発表とディスカッション	事前学習	第 1 章から第 4 章までを振り返り、身の回りの言語についての発表原稿を準備しておく。
		事後学習	ディスカッションの内容を振り返り、発表原稿を修正する。
第１０回	第 5 章「状況に合った言葉」場と場面、話題、機能、文末文体の切り替えについて	事前学習	教科書 pp. 117~132 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 117~132 を読み直し、「状況に合った言葉」について整理してみる。
第１１回	第 6 章「伝達方法に合った言葉」談話共同体とジャンル、話し言葉と書き言葉について	事前学習	教科書 pp. 133~149 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 133~149 を読み直し、話し言葉と書き言葉の違いについて整理してみる。
第１２回	第 7 章「日本語の人称表現」種類、アイデンティティ、聞き手や状況に合わせること、体系と変化について	事前学習	教科書 pp. 150~182 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 150~182 を読み直し、日本語の人称表現について整理してみる。
第１３回	第 9 章「言葉と文化」言語決定論と言語相対論、政治的公正性、言葉によって変わる談話構造について	事前学習	教科書 pp. 203~220 を熟読しておく。
		事後学習	教科書 pp. 203~220 を読み直し、言葉と文化についての研究テーマを考えてみる。
第１４回	第 5 章～第 9 章のまとめ : 言葉と文化についての発表とディスカッション	事前学習	第 5 章から第 9 章までを振り返り、言葉と文化についての発表原稿を準備しておく。
		事後学習	ディスカッションの内容を振り返り、発表原稿を修正する。
第１５回	これまでの内容の振り返り、最終レポートの準備	事前学習	学習内容を復習し、疑問点を明らかにしておく。
		事後学習	第 9 回、第 14 回で発表した原稿を見直し、最終レポートを執筆する。